

数字を読み解く「120兆円」
～2023年度末の日本銀行券発行高～
＜2024/7/30 大分合同新聞掲載＞

数字は、日本銀行が公表している「通貨流通高」にある、2023年度末の日本銀行券発行高だ。23年度末の通貨流通高 125.6兆円のうち、貨幣流通高 4.7兆円に対し、日本銀行券発行高は 120.9兆円に上る。

金額ベースの日本銀行券発行高を枚数ベースに換算すると、1万円札は 112.5億枚、5千円札は 7.3億枚、2千円札は 1.0億枚、千円札は 43.8億枚発行されていることとなる。なお、23年の大みそか、家庭や企業、金融機関などで年越しした銀行券は 185.4億枚に上り、積み重ねると約 1854キロ（富士山の高さの約 491倍）に達し、横に並べると約 289万キロ（地球の約 72周分、月までの距離の約 8倍に相当）となる。

通貨流通高を時系列にみると、貨幣流通高はキャッシュレス決済の進展などもあり、このところ減少傾向にあるものの、日本銀行券発行高は前回改刷が行われた 20年前の約 71兆円（03年度末）から約 7割も増加している。

この背景には日本経済の拡大に加え、低金利環境下において現金を金融機関に預けず、手元の現金を積み増す動きが影響しているとみられる。キャッシュレス決済の普及が進む中でも、引き続き現金決済は相応に行われているほか、災害時などでの決済手段や、キャッシュレス決済の利用が難しい方への対応として、今後も現金に対する根強いニーズが見込まれている。

こうした中、日本銀行は今年 7月 3日に新しい銀行券の発行を開始した。目の不自由な方や外国人にも使いやすいユニバーサルデザインを採用することで、券種の識別性を高めているほか、3Dホログラムや高精細なすき入れといった最新の偽造防止技術を搭載し、銀行券の偽造抵抗力を一段と高めている。

今後も安心して日本銀行券を使える環境を維持するために、日本銀行券の安定供給を確保するとともに、日本銀行券の信認の維持に努めてまいりたい。（日本銀行大分支店）。